

もう一度雨に備える、風に備える。

ふだんから、備える

大雨や台風は、地震と違って、天気予報などで、あらかじめ知ることが出来ます。事前に備えることができますので、日ごろから、十分な備えを！

●排水路や排水口はそうじをして、流れをよくしておく。

●屋根や看板・塀やよう壁などの補修や補強をしておく。

●大きな木の伸びすぎた枝などは切りつめておく。

●非常持ち出し品などの準備をしておく。特にトランジスタラジオ、懐中電灯、食料、ロープ、下着類、赤ちゃん用品など。

●避難場所や安全な避難路を確かめておく。

※避難場所は主に小・中学校など。※地震のときの避難場所と違う場合がありますので注意してください。

●家族や自主防災組織などで、台風や大雨について話し合う。

●大雨や台風するとき

●台風・大雨のあと

●浸水したときは水でよく洗い、消毒する。

●テレビ・ラジオの気象情報に注意する。

●排水路・排水溝の点検をする。

●まわりの状況に注意し、危険なときは避難する。

●浸水のおそれがあるところでは、早めに家具やタタミなどを高いところに移しておく。

●がけの近くでは、十分に注意し、早めに避難の準備をする。

●となり近所で助け合い、自主防災組織などで協力し合う。

●避難するとき

●服装は行動しやすいもので、くつを必ずはく。

●荷物は最小限にして、背おう（両手をあけておく）。

●お年寄りや子供・病人のいる家庭は早めに避難する。

●マンホールがあいている場合があるので注意する。

●がけ下、川べりなどの危険なところはさけ、よく知っている安全な道を選ぶ。

●台風・大雨のあと

●浸水のあとは、衛生などに注意しなければなりません。

●家の回りの安全の確認。

●浸水したときは水でよく洗い、消毒する。

●床上浸水の被害のり災証明書は、区役所で発行します。

防災訓練を実施しましょう

残暑が、まだまだつづいているとはいえ、もう秋です。防災訓練や防災集会・映画会を行う絶好のシーズンです。

わが街の自主防災組織でも、この秋、少なくとも一度は防災訓練などを行ってみましょう。

防災訓練や防災集会などの実施のため職員が必要な場合は派遣をしますので、区役所へ連絡してください。

自主防災組織への助成

町内会・自治会をもとに結成された自主防災組織が、防災訓練や防災集会などをしたときや、防災活動に必要な資・器材を購入するときは、助成や補助をしています。有効に活用して、より充実した地域の防災活動を行っていきましょう。

詳しくは、防災対策室または区役所（総務課）にお問い合わせください。

「長野市の地滑り」から

7月27日(土)、長野市で大規模な地滑りが発生し、大きな被害が出ています。家を押しつぶし、よう壁をくずし、電柱を倒していく、地滑りの恐ろしさを信じられないと思いつつながら、テレビの画面をのぞいた方も多いでしょ。川崎市内には、あのような地滑りが発生する恐れのある地質のところはありません。しかし、次のようなことは、どのような災害に対しても大きな教訓として残りました。

それは、あれほどの大きな被害でありながら、団地地区において、自主防災組織を中心にした住民の協力による警戒と避難、情報伝達により、けが人は、一人も出ていないという点です。

もちろん、お年寄りや病人の避難対策の整備、それに情報伝達体制の整備という点も忘れてはできません。しかし、地域で災害の被害を少しでも少なくするために、地域の人が協力し合うことだということ、見ずしてはならない、大切なことです。



「1982年7月長野水害における住民の対応」(東京大学新聞研究所)から

「長崎水害のさなか・119番との応答」

体験 13

身の回りの安全 レッスン 5 大雨・台風にも備える

「あの家が倒れそうなの、感じなんてすけど」

23日午後11時頃

市民(女性)「がけが崩れてですね。あの、家が倒れそうなの感じなんですけど」

消防「はあ、それで？」

市民「あの……このまま放っておくと……どうでしょうかね？」

消防「えっとですね、あの家が倒れかかっているんですね？」

市民「もうえぐれてるんです。中があの」

消防「そうしたらですね、避難してください。安全な場所へ」

市民「あの、山の中でね。あの、山からすく水が流れてきてちよっと動きがとれないんです」

消防「ああ、とれないんですか。それなら隣は、あ、隣も山？」

市民「ええ、となりも山とがけがこっぴろに崩れてね。それで2軒いっしょにね、ちよっと隣の家に厄介にはなってるんですけど」

消防「えーと、そうですね」

市民「もう大分前から電話してらんだけど通じないから」

消防「ええ、あのですかね、今、存じのように行方不明者とか死者とかがいつぱい出てるんですね。だから、そっちのほうへはね、まあ大分危険のようですが、がけ崩れて倒れる恐れがあると思つたらですね、もっと安全な場所へ行くようにしてください」

市民「あ、山の方にですか？」

市民「今ちょっと下れないんです。階段の方もちよっとえぐれた感じ……全然にちよっともいかない状態で」

消防「ええ、「主人は？」

市民「それがいないんです。お隣も出張中で、うちもね、ちよっと町に出たのが動きがとれないって連絡があったもんですから」

消防「はあ……えーと、それじゃ女の2人？」

市民「いえ、それと子供がおります。それから、「厄介になってるお家も男の子はいないもんですからね。まあ何しろ全部女ばかりなんですもの……」

消防「はあ、そうしたらどうしましょうかね。ええ行きたいのはやまやまなんですけどね、行けないんですわ」

市民「はあそうですね。それじゃあ、手が空き次第ちよっと見に来ていただけませんか？」

消防「はい。もうすぐ崩れる恐れはあるんですか？ 家は」

市民「いえ、もうちよっと上に行くのも怖くてですね」

消防「はあ、怖くてね。もうすぐ崩れそうですね？」

市民「いえ、そこまでは行ってないと思うんですけど、もう土がえぐれてね、それで山川の水が怒濤みたいに溢れてくるもんですからね」

消防「えーと、そうしたら避難したほうがいいですね、早めにね」

市民「そうですね」

ボサイ君



防災センターだより

「親子キャンプで防災訓練」

全市の小学生のみなさん、この夏休みいかがお過ごしでしたか。川崎市立新町小学校児童のみなさんは、7月28、29日南部防災センターで親子キャンプを行ないました。

このキャンプは、単に親子でキャンプを楽しむというのではなく、防災訓練もいっしょに取り入れ、みんなでいっしょに楽しく防災を学ぼうと計画されました。映画会、消火訓練、大声訓練、地震体験、炊き出し、キャンプファイヤーを行なったみなさんは、とても楽しそうでした。

みなさんも、休みを利用して南部防災センターで防災キャンプ等をやってみてはいかがでしょう。

●防災センター見学ご希望の方は、川崎市小田7-3-1 川崎市南部防災センター ☎355-2175へ 交通 国鉄川崎駅前東口9番バス乗り場 臨港バス 富士電機行 小田小学校前下車 徒歩6分

《台風豆知識》

- ①最大風速が17%以上の熱帯性低気圧を「台風」と呼んでいます
- ②15%程度の風で、取り付けの悪い看板などがとばされることがあります
- ③台風の風向は目に向かって左まきです
- ④台風が北上している場合、その東側に川崎市がなるコースが一番危険
- ⑤もちろん、大きな台風が接近したときは、どちら側でも十分な警戒が必要です